【すもも　支援プログラム】　作成日：２０２５年2月１日

◎事業所名：こども発達支援教室すもも

◎事業：児童発達支援事業

◎営業時間：９：００～１５：３０

（サービス提供時間 １部９：４５～１２：４５ ２部１４：００～１5:００）

◎送迎：あり（要相談）

◎法人理念：とんとんは、障がいのある子もない子も、利用する事ができ、子育てに頑張っているだれも素敵な笑顔にあふれ、ホッとできる広場であり続ける

◎支援方針

・発達の過程や特性に応じたニーズや困り・強みを把握するため、５領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の５つの視点に沿ってアセスメントを行い、一人ひとりがその子らしく生きていく力を身に付けるための支援を提供します。また、５領域の視点を幅広く取り入れた総合的支援に加え、専門の資格を有するスタッフによりアセスメントを行い、個別又は小グループにて特定の領域に重点を置いた支援を行っていきます。

・子どもの最善の利益を保証し、保護者のニーズをふまえ、全ての子どもたちが共に成長できるような可能な限り地域の幼稚園・保育所（園）・こども園との併行利用を推進します。

・個々の発達状況や困り・強みに応じた発達上のニーズに合わせ、子ども達それぞれが持つ可能性を最大限に引き出すことを目指していきます。様々な遊びや活動、関りを通して安定した愛着の形成を促しながら育ちを支えていきます。

・日々の様々な活動を通し、小さな成功体験を積み重ねながら達成感や自己肯定感を高め、自分を大切にし自分を好きになる気持ちを育んでいきます。

・子どもの興味関心を大切にし、主体的に学び、経験する機会を提供する事で、内在的に持っている力を引き出していきます。

◎家庭支援

・日々の活動や生活の様子の報告、定期的な聞き取り、相談、評価の報告などを通して発達状況を共有し、親子関係や家庭生活の安定充実につなげます。

・きょうだい児を含め、子育てへの不安やストレスなどについてその気持ちを受け止め、共に考え、ご家族の精神的部分のケアを心掛けています。

・ペアレントプログラムでは、前向きな気持ちで子育てができるような考え方や方法を学ぶ機会を設けています。

・週１回の親子通園日や定期的に行っているお話し会を通し、保護者同士の横の繋がりを作る事で、子育ての悩みや疑問を共有できる仲間づくりの輪を広げる交流の場を設けています。

・長期欠席やサービス終了後の一定の時期において、必要に応じ電話での連絡や家庭訪問、保護者との面談を行います。

◎地域支援・連携支援

・必要に応じた地域資源と連携し、障がい福祉、母子保健、医療、子育て支援、教育、障がい福祉サービス事業所等、お子様の育ちや家庭生活に関わる様々な分野の関係機関との支援体制の構築を図っていきます。

・安定した日常生活を送れるよう、情緒面の変化や発達状況、成長の様子等を含め、日々の変化を、併行利用先と情報の交換や共有を行っています。

・ホームページやすももだよりを通じて、地域に活動方針や活動内容を知らせています。

◎職員の質の向上

・専門的分野の研修や、事業に関わる分野の研修を通して、他施設、他職種の方と情報交換をすることで、家族支援や総合的支援に柔軟な対応ができるよう、知識や技術のスキルアップを行っています。

・専門職会議や検討会議において、お子さんの発達や成長に合わせたアプローチの方法を検討し、生活や活動に取り入れられるようチーム全体で協力し、様々な視点からのアイデアや知識を共有し、職員一人ひとりが考え行動できるようスキルアップを行っています。

◎移行支援

・お子様とご家族のニーズを共有、理解し、移行の際予測される環境変化などを　具体的に説明し、ライフステージ移行に向けてイメージができるよう支援していきます。

・相談支援との細やかな情報共有や、移行先との担当者会議、保育所等訪問支援を通し、切れ目のない支援を目指していきます。

・移行先の環境を把握したうえで無理なく移行ができるよう、情報提供や会議等で受け入れについて連携を図ります。

・お子様を含めご家族が安心できるよう、必要に応じて移行後も情報連携を維持し、サポートをしていきます。

◎本人支援

〇健康・生活

・通所時に健康状態の確認を行います。体調不良等の意思の表出が難しい場合には顔色や表情など普段と違う様子を把握しながら健康管理を行います。

・定期的に身体測定を行い、発育状況の把握を行います。併せて、健康状態の維持・改善及び生活習慣の生活リズムの形成、基本的生活スキルの獲得を目指していきます。

・日常生活動作を手伝う中で、発達状況に応じて衣服の着脱・身支度・排泄等の基本的生活スキルの獲得を促していきます。個々の状況や状態に応じて、お子様ができる形や方法での定着を図っていきます。

〇運動・感覚

・粗大運動（体全体を動かす運動）や感覚運動（視覚、聴覚、触覚、体への刺激を促す運動）をあそびや活動を通して行っています。

・体操やリトミックにて体を十分に動かし発散し、集団活動や主活動へ集中ができるように楽しみながら参加できる設定を行っています。併せて、手先の活動では、毎日行うシール帳へのシール貼り、制作や自由画で行うクレヨンや筆を使った活動、ひも通しやコイン落とし、パズルなどを通して微細運動の動きを促しています。

・五感（感触遊び：スライムや小麦粉ねんど、片栗粉あそび、水あそび等）や固有受容覚（トランポリン、バランスストーン等）・前庭感覚（ブランコやスクーターボード、シーツブランコ等）等の感覚を育む遊びや活動を通して、個々の発達状況に合わせた柔軟なアプローチにて楽しみながら感覚統合を進められるようサポートしていきます。

〇言語・コミュニケーション

・自由あそびや課題活動を通して、個々に合わせた声掛けや手本を見せながらのジェスチャー（非言語コミュニケーション）を用いてやり取りを行い、言語理解や表出、人との相互作用によるコミュニケーション手段を拡げていきます。

・個別にて、言語コミュニケーション発達スケール、絵画語彙発達検査等の言語発達検査を必要に応じて行い、一人ひとりの発達レベルに合わせた訓練プログラムを組み立てます。

・療育や日々の関りの中でコミュニケーション手段の選択と活用を促します。

〇認知・行動

・視覚優位や聴覚優位等、子ども達の認知特性について理解を深め、個々の発達状況に応じてアプローチを工夫していきます。

・課題や活動を通して、色や形、数や量、音の変化、物の機能や属性、空間、時間等の概念の形成を促していきます。

・状況の理解や適応的な思考をサポートし主体性や自主性を育んでいきます。

・絵本の読み聞かせや課題活動（模倣活動等）を通し、見る力（見る機能）を強化し、認知能力やボディイメージの向上を目指していきます。

・擬音語や擬態語を使う事で、音や動作、感情を直接的に表現し、言葉に対する感覚を育みながら具体的なイメージができるよう働きかけていきます。

・障がい特性を把握し環境調整をおこなう事でリスクを下げ、行動障がいへの予防を心がけます。

・個別に新版Ｋ式発達検査、ＰＡＲＳ－ＴＲ等の検査を必要に応じて行い一人ひとりの発達を理解し発達レベルに合わせたプログラムを組み立てます。

〇人間関係・社会性

・日々の関りの中で愛着を形成し、安心感や信頼感の土台を育んでいきます。

・場面に応じた挨拶や言葉が身に付くよう、ソーシャルスキルトレーニングを意識した声掛けややり取りを行い、他者・児に対し興味関心をもち、好意的な関りが経験できるよう取り組んでいきます。

・興味関心のあるあそびを通し、個々の状況に応じて場やあそびを共有する経験を増やしていきます。その後、この遊びから少しづつ集団あそびへ移行できるよう「一緒に～する」経験ができる場を提供し「一緒にが楽しい」と思えるよう、社会性の発達を促していきます。

・遊びや活動、生活の中で、好きな事や苦手な事等の自分の感情に気付く事で、自己理解を深め、その中に芽生えた「次の新しい事をするために頑張ってみよう」「やりたくないけど、みんな楽しそうだからやってみようかな」という意欲へと繋げていきます。

◎主な行事

春（４～６月）

・進級式　・春の遠足　・こどもの日お祝い会　・虫歯予防デー

夏（７～９月）

・七夕　・水、泥遊び　・プール遊び　・夏祭り

秋（１０月～１２月）

・運動会　・芋掘り　・おいもパーティー　・クリスマス発表会

冬（１～３月）

・お正月遊び　・氷遊び　・豆まき　・ひな祭りお祝い会　・お別れ遠足　・修了式

◎その他

・誕生日会　・身体測定（毎月）